

平成 18 年 1 月 31 日

看護学専攻部会

大学院進学に対する看護職のニーズ分析(報告)

看護学専攻部会 大学院カリキュラムワーキング

井手、三重野、小幡、原田、前川

I. 目的

本学大学院看護学専攻が、看護職の生涯教育の場としてより充実・発展するために、大分県下の看護職(表1)の生涯教育ニーズを把握することを通して、現行の教育カリキュラム、就学システム、入学試験方法等の改善点を明らかにする。

表1 大分県内の看護職数

	調査年	保健師	助産師	看護師	准看護師
看護職数	H.16.12.31	564 名	263 名	15799 名	
病院に就業する看護職数	H.15.10.1	14 名	129 名	7148 名	3174 名

II. 分析資料

1. 平成 14 年度大分医科大学地域貢献特別事業「保健医療従事者の生涯教育支援事業」看護専門職の生涯教育に関する調査(資料1冊子)
2. 平成 17 年 8 月に実施した附属病院看護職員に対する大学院説明会の結果(資料2)
3. 平成 17 年度大分県内の看護職を対象とした「大分大学大学院進学のニーズ調査」(資料3)

表2 分析資料の調査対象および分析対象数一覧

数値は分析対象数(名)

	病 院		保健所	市町村	訪看	老健	特養	在介
	附属 病院	その他						
1.平成 14 年度調査			● 98	● 147	● 99	● 156	● 120	● 52
2.附属病院 大学院説明会	● 6							
3.平成 17 年度調査		● 1021						

備考)「訪看」訪問看護ステーション、「老健」介護老人保健施設、「特養」介護老人福祉施設、「在介」在宅介護支援センター

Ⅲ. 分析結果の概括

1. 大学院進学に関心 (表3)

- ・施設間で若干の格差はあるものの、進学への関心度は30～40%。
- ・進学に高い関心を示す者は1割以下。

表3 大学院進学に関心

単位は人数、()内は%

	病院 (n=1021)	保健所 (n=98)	市町村 (n=147)	訪看 (n=99)	老健 (n=156)	特養 (n=120)	在介 (n=52)
たいへん関心がある	82 (8.0)	4 (4.1)	14 (9.5)	4 (4.0)	10 (6.4)	8 (6.7)	5 (9.6)
まあまあ関心がある	375 (36.7)	43 (43.9)	45 (30.6)	29 (29.3)	33 (21.2)	38 (31.7)	20 (38.5)
関心はない	522 (51.1)	50 (51.0)	83 (56.5)	56 (56.6)	95 (60.9)	58 (48.3)	21 (40.4)
無回答	42 (4.1)	1 (1.0)	5 (3.4)	10 (10.1)	18 (11.5)	16 (13.3)	6 (11.5)

備考) 「訪看」訪問看護ステーション、「老健」介護老人保健施設、「特養」介護老人福祉施設、「在介」在宅介護支援センター

2. 看護の現場の中での学習課題 (表4)

表4 学習課題

	日常業務上の課題	組織・管理上の課題
病院	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケア ・フィジカルアセスメント ・社会資源の理解と活用 ・家族看護 ・心理・社会的アセスメント ・リハビリテーションに関する知識と技術 ・看護記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護基準・マニュアルなどの作成 ・病棟の経営管理 ・職場外で行われる研修会等への参加 ・ケアに対する利用者からの評価 ・仕事の計画作成/関連機関との連携 ・看護情報の管理および看護のIT化/ 外部からの第三者評価 ・学生教育(実習) ・職場内研修などスタッフ教育 ・緊急時の対応のシステムづくり ・事故防止などリスクマネジメント
保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・企画調整 ・施策形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健活動の評価と計画 ・行政職としての力量形成 ・職場内での日常的現任教育
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・住民組織グループの育成支援 ・母子保健 ・精神保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健活動の評価と計画
訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> ・家族看護 ・医師との連携 ・リハビリテーションの技術と方法 ・緊急時の対応、終末期ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアに対する利用者からの評価 ・看護記録の改善管理
介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者に対する理解と援助 ・ケアプランの立案 ・嚥下障害がある者への援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止 ・業務改善 ・看護職および介護職の教育
介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下障害がある者への援助 ・認知症高齢者に対する理解と援助 ・終末期ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止 ・看護職および介護職の教育 ・業務改善
在宅介護支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・対人援助技術 ・高齢者の社会保障制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との効果的な連携

備考) 「病院」は、大学院進学に関心がある群とない群との比較において、有意差が認められた項目を割合が高い順にあげている。「病院」以外は、50%以上の回答があった項目を割合が高い順に列挙。

3. 大学院進学に関する疑問・問題

- ・全ての施設に共通する問題は、「現職を辞めなければならない」、「辞めた場合、復職が保障されない」、「職場の理解や協力が得にくい」、「入学料や授業料などの学費が高い」の4点。
- ・進学に関心がある病院の看護職の声として、「入試科目の英語が大変そう」、「学びたいことが大分大学で得られるのか疑問」があげられた。

4. 魅力ある大学院カリキュラム（表5）

- ・全ての看護職が、「相談・カウンセリング理論と技術の探究」と「看護管理の探究」を大学院で学びたいこととしてあげていた。
- ・病院、訪問看護、介護老人保健施設、介護老人福祉施設の看護職は、「看護現場の問題の検討」、「看護技術の開発・探究」を学ぶことを希望していた。

表5 魅力ある大学院カリキュラム

	病院	保健所	市町村	訪看	老健	特養	在介
看護理論と実際の探究							
相談・カウンセリング理論と技術の探究	①	①	①	①	②	②	①
看護管理の探究	⑤	②	②	②	④	③	②
看護教育の探究							
看護研究の探究							
国際的な看護の探究							
看護のエビデンスの探究	②						
看護技術の開発・探究	③			④	③	④	
看護現場の問題の検討	④			③	①	①	③

備考) ・30%以上の回答があった項目を割合が高い順から丸数字で順位を示している。

・「病院」は、大学院進学に関心がある457名の回答結果。

・「訪看」訪問看護ステーション、「老健」介護老人保健施設、「特養」介護老人福祉施設、「在介」在宅介護支援センター

5. 大学院への要望（自由記述による）

- 1) 進学を阻むもの（年齢、通学時間、学力、学費、自身の動機、職場の理解）への対応
 - ・遠方の者でも学習できるような方法を（サテライト方式、インターネットの活用、通信教育等）
 - ・入試問題の開示
 - ・意欲のある人が研究業績のハードルなく進学できる入試・入学システムを
 - ・一単位ずつでもとれるような履修のしくみ
- 2) 公開講座や研修会への期待
 - ・進学といかないまでも「看護現場にそった」、「看護現場に活かせる」、「看護実践そのものに焦点をあてた」公開講座や研修会を開催してほしい
- 3) カリキュラムの充実
 - ・資格が得られるコースを（認定看護師、専門看護師、助産師、保健師、カウンセラーなど）
- 4) 大学院の具体的な紹介
 - ・大学院は何をやる場所なのか、進学によるメリットは何かを具体的に説明・紹介すべき

IV. 教育の改善点

1. 教育カリキュラムについて

1) 現行カリキュラムおよび教育組織の大幅改正

- ・現在の教育組織体系（領域単位の教育）とカリキュラムでは、大分県下の看護職の生涯教育ニーズに十分に答えきれないと思われる。
- ・看護職の関心は、「変化・変革に対応する看護管理」と「質の高い看護実践」にある。高度専門職業人を育成する大学院修士課程においては、この2つの生涯学習ニーズを柱にしたカリキュラムを編成すべきなのではないかと考える。
- ・カリキュラム編成においては、大学院生の生涯学習ニーズに応じることを理念とし、従来の領域を取っ払い授業科目を中心とした教育組織をつくる。

2) 総合大学の特長を活かした授業科目設定の可能性

- ・養護教諭免許の資格取得に向けたコース
- ・他の研究科との単位互換

3) 高度専門職業人育成の視点に立った教育方法

- ・臨地実習の充実・・・質の高い実習地と実習謝金の確保

2. 就学システムについて

- 1) 附属病院の看護職員に向けてのPR活動を積極的に図ると同時に、入学・履修しやすい就学システムを看護部と協働でつくる。
- 2) 各種制度をわかりやすくより具体的に説明する
- 3) 看護学科 or 看護学専攻独自の公開講座・研修会を積極的に開催する。受講者には、大学院進学に関する特典を付与する。
- 4) 遠方の看護職への進学・就学を促進する制度や教育方法を編み出す。

3. 入学試験方法について

- 1) 入試問題の公開
- 2) 入試科目の見直し。受験者にとって敷居が高い「英語」をどう扱うか。
- 3) 社会人入試での受験資格審査の条件「研究業績」をどう扱うか。
- 4) 大学院で何を学びたいのかを文書上説明しないままの入試でよいのか。入学動機の明確さを重視した入試制度にしてはどうか。

(出典：看護学専攻作成)